

としまPゼミ通信は、毎回の活動をまとめ、学びのふりかえりに役立てていただくことを目的に発行しているものです。さっそく第1回月例会の活動を紹介します！

今年度の年間講師

あそび環境 Museum アフタフ・バーバン元代表
きた きたじまたかし

北さん こと北島尚志先生です！

今年度のテーマは

コミュニケーションが育む未来

～おとなと子どもが響きあう

「響関力」とは～



豊かなコミュニケーションを目指して！

— 伝えたい事が伝えたい人に伝わっていますか？ —

昨年度までの「SDGs」とはテーマをがらりと変えて、今年度は「コミュニケーション」をテーマに全5回で活動していきます。コミュニケーションは、私たちが生活するうえで欠かせないスキルでもあります。第1回月例会は初の試みとして「公開講座」として開催しました。

まずは講師の北さんから、子どもを取り巻く環境についてのお話がありました。子どもは「学校」「家庭」「地域」で育つと言われ、昔はその3つのバランスがよかったそうです。しかし、現在では多様な家庭環境もあり、ありのままでいられる「家庭」や興味・関心・好奇心にあふれている「地域」で過ごすより、子どもたちは「学校」にいる時のように、頑張っって緊張状態にいる時間が多くなっている印象があると北さんは言います。北さんは、どうしたら子どもが主体的にありのままに緩やかで甘えながら過ごせるのか、日々考えて活動してらっしゃいます。北さん自身の子育て・孫育てや赤ちゃんから思春期まで40万人以上！の子どもと接した経験を踏まえて、どう子どもたちと距離感をとっていくか、あそび・表現・コミュニケーションを使って「響関力」を身につけていきましょう！と皆さんにメッセージが送られました。

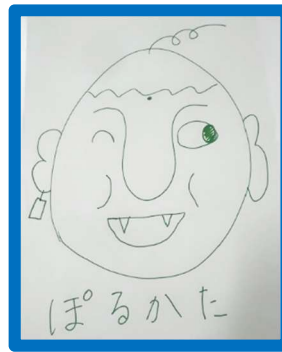
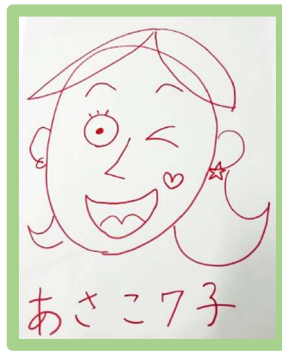
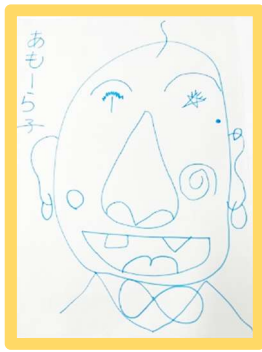
まずは「あそび」を体験してみよう！

北さんの講座は皆さんを笑顔にします！まずは、一緒にあそんでみよう！今日の実践は、聖心女子大の授業でも取り入れているそうです。

まずは頭と身体を使った「手あそび」。「ラッキー7」では、「ラッキーセブーン♪」の掛け声で、指で数字を出して、班のメンバーが出した指の合計が「7」になるように目指します。事前協議はもちろんダメ！相手の目を見つめて(笑)、相手が何を出すか、想像しながら自分が出す数を決めます。さて…結果はいかに？全員がバラバラの数を出しても思わず笑いあったり、あと1人だったね！と残念がったりと大いに盛り上がり一気に皆さんの緊張が解けましたね。

次は一筆書きの「顔」に挑戦しました。何も話さず1本のペンでコミュニケーションをとっていきます。1人ずつ紙に一筆ずつ描き、何回か順番で回し、グループで1つの「顔」をつくります。これで完成！と誰かが思ったら、名前を一字ずつ決めます。新たなPゼミ仲間が3人増えましたのでご紹介します！





「途中交代で書いている時は、『あんな線、私なら入れないな』『何これ?』などいろいろな思いがあったでしょう。でもどうです?思いがけない顔ができる。最後に見るともうその顔は「あもーら子」そのものでしかないのです…。

子育ても同じ。あなた一人だけで育てるのではなく、周りの多くの人が関わり成り立っているのです。またあそびにはルールが必要ですが、ルールは作り変えられる。ルールを破るのはワクワクすることです。そして今大事なのはルールを作り変えていく遊び、その先に未来が。あそびはコミュニケーション、表現なのです。」北さんの講義は続きます。

なぜ今コミュニケーションの問題が起きているのか?

現代社会では、コミュニケーションが閉ざされている状況が多々あります。

まず「禁止」という行動です。ルールを作り変えることができない「禁止」は、人を黙らせてしまうのです。「早いことは良いことだ!」早くないのはダメなのでしょうか?人間の本质の一人一人が違ってよいという意識が潰されているのです。「サービス」のしすぎの便利な社会もコミュニケーションの機会を減らしています。

コミュニケーションは、ラテン語の「共有する」が語源

コミュニケーションとは他者と意思・情報を共有するという意味です。自分の意思をどううまく相手に伝えるか、だから悩むのです。テーマは「違いと共有」。わが子でさえ自分とは違うので人が違えば、言い方を変えなくてははいけない。子どもと向き合い1対1の時間を作るのも、とても大切だそうです。

目は口ほどにものを言う…といいますが、実は「言外コミュニケーション」が一番重要。人は、身振り手振りや表情、声のトーンなどで相手を理解しているとの統計もあります。先ほど皆さんも一筆書きのペンのワークで実感されたのではないかと思います。

コミュニケーションは面倒ですが、それでも自分が関わろうとするエンジンは何??それは、「安心感・興味関心・好奇心・想像力」ではないでしょうか。

コミュニケーションとは個人の資質ではなく、関係作りそのものの中にあり、関係を作るには関わらなければコミュニケーション力は身につかないのです。そこにともに響きあう「響関」という関わりが生まれると、心地よいコミュニケーションとなります。安心して、自分の興味関心に向かい、相手を思いやる想像力が発揮された時に、お互いが心地よくなる、そんなコミュニケーションをこの講座の中で体感していきます。

子どもは「あそび」の中でコミュニケーションのトレーニングを重ねています。ここにいる保護者が子どもとどう関わるのか、次回以降お話ししていきたいと思ひます。

○○○みなさんからの感想を一部ご紹介します○○○

*原文ママ

今回学習した内容で、印象に残ったこと

- 遊びはルールを作り変える、その楽しさを知ることがコミュニケーションということで、遊びの奥深さを感じました!
- 今の社会がコミュニケーション不足を育んでいるということの事実が、目から鱗でした。
- 一輪車のかき氷のお話が印象に残りました。

これから実行しようと決めたこと

- 禁止しないで、フレキシブルに。「あなたが世界一大好きだよ」を実行します。
- 子供達と一筆書きの顔を書く遊びをしたいと思います。
- 他者との違いの面白さにワクワクした心を持ち、その関わりの中での出来事を笑える人に



今年度の学習発表会は、令和8年3月1日(日)区役所1階としまセンタースクエアにて開催します。
今年度の担当は太田・岡田・大和田です。よろしくお祈ひします!